

新年のごあいさつ

平成23年元旦



神埼市長 松本茂幸

明けましておめでとうございます。皆様には、ご家族お揃いで希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年は、神埼市が合併して5年を迎えます。合併後のいろいろな課題調整という段階から、いよいよ神埼市としての真の基礎づくりと発展の方向性を定めていく時期にあると思います。

私自身、第一期目の四年間は市民の融和と親睦を図るための交流を第一義として市政運営に当たると同時に、脊振町、神埼町および千代田町のそれぞれの繰越事業の継続と各地益の要求と確保といったことへの対応、調整に配慮してまいりました。二期目の今後は、一期目の成果を基礎として、神埼市全市をベースとする課題に対し全力を挙げてまいりたいと考えております。

さて、三年前のアメリカのリー

マンショックに始まった世界経済の低迷は、一部の国を除きなかなか好転の兆しもなく、昨年は我が国も引き続き大変厳しい経済状況になりました。また、昨年は新型インフルエンザの蔓延に気遣い、昨年は口蹄疫の拡大に戦々恐々とし、さらに年をまたいで冬のインフルエンザの広がりが心配されることから、早期の予防ワクチン接種を受けられるよう国・県に対し強くお願いしてまいりました。

国政では、選挙公約・マニフェストに基づく事業仕分けや子ども手当の一部支給、高速道路無料化や農家への戸別所得補償への一部実施などが推進され、さらに、重なる大型の緊急経済対策予算の実施や公約完全実施に向けた政治主導の取り組みが模索、検討されております。

また、出口が見えない厳しい経済状況などの国内課題が山積し、加えて尖閣諸島、竹島や北方四島など中国、ロシア、韓国との領有権問題、TPP問題など外交、国際課題への対応など、政権への国民意識も流動的であるとの指摘報道がなされております。

平成12年に地方分権一括法が制定されて以来、地方分権の意識は徐々に高まりつつある

ものの、その確立が早期に求められております。

私は、かねてから申しておりますように地方分権が進めば市の財政の安定が重要になります。市の責任において企画立案し、その実施と結果に責任が求められることから、職員の資質の向上（研修）、情報の収集と伝達、組織のスリム化を含めた行財政改革の推進、さらに、市民の皆様の行政への関心を高めた市民協働のまちづくりが必然的に求められてくるものと考えます。合併以来健全な財政を訴えてきたところであり、地方分権下の神埼市の運営はしっかりと財源の裏付けがなければなりません。国全体の借金は一千兆円になろうとしております。国からの地方交付税の増額や既存の補助金等をまとめた一括交付金などが取り上げられていますが、国全体の財源不足の中で、今後、必ずや絞り込まれることは必定であります。地方税源の新たな発見と確保（企業誘致、起業など）に努めるなど財政再建に十分配慮することが大切だと考えております。しかしながら、神埼市としてやらなければならないことはたくさんあります。主なものをあげてみますと、

① 組織機構と職員定数

合併時、7部制3総合支所の組織と職員約300人でスタートしましたが、5年間で職員定数を253人とする計画が成されておりました。その後、組織機構のスリム化、効率化を求め試行錯誤の中、現在は、5部制2総合支所の組織と職員255人となっております。さらに地方分権による権限移譲が進む中において効率的な運営を図るためには、本庁および総合支所における機能見直しの検討が必要であります。また、市議会議員の皆様の理解と協調をお願いしながら、さらなる行財政改革の見地から組織機構と職員定数の見直しに取り組んでまいります。

② 治水対策

城原川の治水対策では、城原川ダムの検証が行われますが、一日も早い結論を願い、河川の流量確保と堤防の強化、提示されている安全度の確保に全力を尽くします。また、ゲリラ的降雨に対する安全確保の推進に努めます。

③ 西郷保育園園舎建設

本年、二学期から新園舎での保育ができるように進めてまいります。



④ 学校給食センター建設

平成22年度から24年度までの3カ年継続事業として進めてまいります。

⑤ 千代田町西鉄バス運行と脊振町昭和バス運行

普通路線バスは、市の負担助成を行っても市民の足として確保を行います。

⑥ 脊振町振興計画の策定

時限立法である過疎地域自立促進特別措置法が昨年6年間延長されたことから、引き続き脊振町地区の整備を有利に進めるために、平成22年度から27年度までの『神埼市過疎地域自立促進計画』を策定したところであり、今後、城原川ダム検証結果等によつては見直し改善すべきことについては改正を加え、より良い整備に努めてまいります。

⑦ 法落対策

圃場整備による水路（土側溝）の法落対策工事は、幹線水路の補助事業認定をお願いしており、その他の用排水路の法落対策としての市単独工事の方法など積極的対応に取り組んでいきます。

⑧ 葬祭公園建設と消防の広域化

吉野ヶ里町と共同で建設することでの方向性は、同意をいただいております。今後、神埼市

が事務局となつて具体的な場所、建設に伴う費用などの協議を重ね推進することとしておりますので、市民の皆様のご理解とご協力を切にお願いたします。また、神埼地区消防事務組合は、佐賀広域消防事務組合との合併広域化に向け、検討協議を進めてまいります。

⑨ 安全安心のための情報の高度化

市民の安全安心のための防災無線の整備は、平成22年度から23年度の継続事業として整備します。また、IT情報の利便さとテレビのデジタル化の市内均一化を図るため3月までにCATV敷設を完了します。

⑩ 地域の絆づくり

市民の交流、地域の連帯のためのまちづくり（地域共同推進事業・まちづくり推進事業）、家族の絆づくり（家読）、歴史を生かしたまちづくり事業などの事業に対する支援、市民協働を進めていきます。

⑪ その他

昨年10月からは小学生医療費助成を開始し、また、市民の健康に関しては、子宮頸がん、小児用肺炎球菌、Hibの各ワクチン予防接種の実施、地球温暖化対策の太陽

光発電設置補助事業継続（平成23年度まで）、災害復旧工事など、必要な事業は積極的に取り組みます。

神埼市発展のため、市民福祉の向上のために、たくさんの方々に取り組んでまいります。

最後に、神埼市の発展と市民の皆様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。年頭のあいさついたします。



神埼市議会議長

松本 軍二

市民の皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

輝かしい平成23年の年頭に当たり、神埼市議会を代表して新年のごあいさつを申し上げます。

昨年4月に、市民の皆様から選ばれた24人の新たな議員で公正・公平で円滑な議会運営と、市民に開かれた議会に向けた改革を進めております。

本市の財政状況は一段と厳しさを増すなか、環境・福祉・教育など各分野で課題が山積しておりますが、市民の皆様方の共通の利益を最優先に職責を全うする所存でございます。

また、旧年中は市議会に対し、皆様の深いご理解と力強いご支援を賜り、お陰をもちまして、議会活動に専心することができました。地域振興をはじめ、市政の向上・充実などの公務

に、議会全員が精励することができましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、国政においては、これまでの国政の無駄を省くべく事業仕分けが行われ、その結果や景気の見通しなどにより、平成23年度の予算が編成されるわけですが、補助金の削減や公共事業の見直し、国の財源不足などの報道もあり、地方交付税や国、県の補助金に依存する割合も大きく、神埼市にとって財政運営は益々厳しさを増しております。

そのような状況下においても、神埼市における行財政改革は、一定の成果を挙げておりますが、財政はいまだに厳しい状況にあります。本日に市民が必要とするサービスが提供されているのか、市民の代表として、厳しい目でチェックしていきたいと思っております。

また、地方分権が進む中、地方に権限や財源が移れば、議会における行政の執行状況を監視する役割は今まで以上に重要となり、あらためてその責任の重さを痛感いたしております。将来の神埼市の発展と市民の皆様方の幸福の追求のため議員一同、心新たに努力していく所存であります。

最後になりましたが、本年も

なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、市民の皆様にとつて幸多い一年となりますことを心より念じ申し上げます、新年のあいさつといたします。

「地域を知域に」を合言葉に



教育長 實松 信子

新しい年をお揃いでお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、この一年間、多くの市民の皆様のご理解・ご支援を得て、神埼市の教育を推進させていただきましたこと、心からお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返って見ますと、主な事業として学校教育にICTの環境が整い、新たな教育活動の展開が大いに期待できるようになりました。韓国のICT環境の整備は、日本のレベルのはるか上位にあり、日本は世界で90番目を下回っている現状です。幸いにも、本市に

おいては環境整備が進み、県内ではかなり上位にあります。今後は、これらを活用して未来に生きる子どもたちに情報化社会に対応できる学力を習得させていくことが学校の使命となっております。

社会教育関係では、子ども能楽教室をはじめとする伝統文化の継承や九州民族芸能大会での「高志狂言」の公演、盛大に行われた「吉田絃二郎生誕125年記念式典」、地域色豊かな市内3町の文化祭、また、「子ども音楽の集い」では、市内幼・保・小・中・高の参加を得て、年を重ねるごとに趣向を凝らした内容となり、演奏者と観客が一体化したすばらしい会に成長しています。

社会体育関係では、5月に「神埼市チャレンジデー」が開催され、市民一丸となつてスポーツに取り組み、対戦相手の沖縄県南城市に勝つことができました。市民の皆様強い結団力の表れと、誇らしい気持ちになりました。

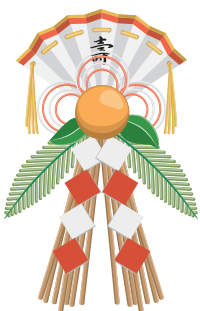
文化財関係では、特に喜ばしいこととして、2月に姉川城跡が国史跡として指定されました。長年の地元の方々の支援とご理解が功を奏したものと思われまます。整備・活用には時間を要しますが、市民の皆様のご協

力を切に願うところです。また、下村湖人生家と旧古賀銀行跡が「22世紀に残す佐賀県遺産」に認定されたこともご報告しておきたいことです。市内の歴史遺産の保存活用に今後とも努めていきます。

以上、昨年の主な実績を上げましたが、今年、「地域の教育的能力の向上」を目指していきたいと考えています。

学校を核とした、地域連携の強化を図り、相互の理解と協働のもとに、市民主体の教育環境の出現を目指し、「地域を知域に」を合言葉に学校教育はもちろんのこと、公民館活動の充実・図書館活動の充実も求めていきたいと考えています。その一例として「家読」の推進を図るとともに、中央公民館を拠点とする諸活動の活性化も目指していきたいと考えています。

市民の皆様方の要望に応える活動内容の充実を目指していきますので、今年もご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



今年の抱負

《総務企画部》

昨年は、危機管理体制の整備や地域情報基盤整備、公共施設に太陽光発電システムを設置するなど、環境にやさしく住みやすいまちづくりに努めてきたところです。

地方財政は、きわめて厳しい状況にあり、その健全化を図っていくことが最大の課題となっております。このような状況の中、国は「ひも付き補助金の一括交付金化」を打ち出しており、地方財政制度の大幅な変更も見込まれています。本市の財政運営にも影響が出てくるものと思われませんが、時代の潮流を見据え、財政基盤の確立を目指し、自主財源の確保や重点的・効率的な予算編成に取り組みます。



▲地域ブランドを目指す菱焼酎

新たな地域ブランドによる活性化にも取り組んでいます。昨年に着手した菱焼酎の開発は、試作品が完成し、市民交流祭でお披露目され、古川知事にも報告しました。今年には、焼酎量を増産し、商品化への検討を進め「地元への還元」を目指していきます。

また、市民の皆様に分かりやすく、利用しやすいように組織機構や事務事業の見直し、市民の安全安心を確保するため防災体制の充実などに取り組んでいきます。

本年も、開かれた市政運営に向け職員一丸となって、全力で努めていきます。

《市民福祉部》

市民課では、各種証明書の発行や届出等の手続きなどの行政サービスを、できるだけ1カ所で行う総合窓口の設置や毎週火曜日(平日)は、夜7時まで窓口を延長して、住民サービスの向上に努めています。

環境面では、環境の保全、創造および再生に関する施策を総合的に推進しています。新エネルギーの活用として、住宅用太陽光発電システム設置に補助を行い、地球温暖化防止に努めています。

社会福祉では、子育て支援に力を入れており、さらなる充実を図ります。西郷保育園の改

築は、早期の完成を目指して事業を進めていきます。また、昨年整備した災害時などでの要援護者支援システムへの登録推進を図り、市民の皆様へ安全安心と福祉の充実に努めていきます。



▲早期改築を目指す西郷保育園

高齢福祉では、生きがい活動通所支援事業などの元気老人対策のほか、ひとり暮らし老人などを対象とした緊急通報システム事業への加入推進などにより、高齢者の生活安全対策に取り組みます。また、地域包括支援センター事業では、介護予防事業に力を入れるとともに、権利擁護や介護相談などの機能強化にも努めていきます。

障がい福祉では、障がい者の自立を支援するため、就労継続支援・共同生活援助などの障がい福祉サービスの充実に向けてまいります。

《産業建設部》

昨年は、一昨年に引き続き豪雨による災害が発生し、市民の安全安心な生活環境保全のため復旧事業に取り組んでまいりました。また、農業経営の安定、食料自給率の向上、農業の多面的機能の維持などを目的として、平成23年度に本格実施される戸別所得補償モデル事業がスタートしました。担い手不足、高齢化が進む中、農地集積、認定農業者の育成、新規就農者の確保などに取り組んでいきます。

クリーク法落対策の防災事業や農道舗装事業等については、年次計画を立てて取り組めます。

市道千代田西1号線の道路改良事業は、地権者等の協力により計画どおりの推進することができました。また、上六丁踏切拡幅事業は、JRとの協議も終わり、JR施工の契約を締結、市施工分についても事業を推進していきます。安全に通行できる市道の維持管理のため、舗装工事などの事業に取り組めます。

市民福祉の向上のため職員一丸となって取り組んでいきますので、市民の皆様のご理解、ご協力をお願いします。

市内企業の情報交換、連携を深めるために設置された神埼市企業連絡協議会が、福岡市で行われた「モノづくりフェア2010」へ初出席したのをはじめ、地域購買力推進のため、商工会などと連携し、商品券事業に取り組みました。また、市のイメージアップを図るため、九年庵をモチーフにした市のゆるキャラ「くねんワン」「くねんニャン」を誕生させました。

下水道事業では、昨年に引き続き「暮らしやすい、住みやすい街づくり」を目指して、下水道管渠整備の拡大を図り、普及率の向上に取り組めます。



▲イメージアップを図るゆるキャラ